

第30回

昔を！今を！今歌う会

特集 戦後歌謡史を彩った船村徹

～ 時を超えて歌い継がれる昭和の名曲を ～

おはなし・歌唱指導
ピアノ

酒井沃子
青柳志保

安田直弘

Sing-
Along



2017年 4月 16日(日) 開演 14:00

会場 スタジオ・バルーン

■ 主催 今歌う会実行委員会

プログラム

第一部 船村徹名曲選

- | | | |
|----------------------|-----------|----------|
| 1. 別れの一本杉 (昭和30年) | 唄 春日八郎 | 作詞 高野公男 |
| 2. 柿の木坂の家 (昭和32年) | 唄 青木光一 | 作詞 石本美由起 |
| 3. 東京だよおっかさん (昭和32年) | 唄 島倉千代子 | 作詞 野村俊夫 |
| 4. 王 将 (昭和36年) | 唄 村田英雄 | 作詞 西条八十 |
| 5. 矢切の渡し (昭和51年) | 唄 ちあきなおみ他 | 作詞 石本美由起 |
| 6. 風雪流れ旅 (昭和55年) | 唄 北島三郎 | 作詞 星野哲郎 |
| 7. 兄弟船 (昭和57年) | 唄 鳥羽一郎 | 作詞 星野哲郎 |
| 8. みだれ髪 (昭和62年) | 唄 美空ひばり | 作詞 星野哲郎 |

♪♪♪♪♪ 休 憩 ♪♪♪♪♪

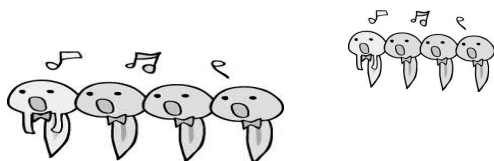
第二部 お楽しみコーナー

◇あなたは“音”に操られている？

・我々が日頃、何気なく耳にしている、“音”、“音楽”の意外な秘密に迫る。

第三部 リクエストコーナー

◇春の唄特集



♪プログラムの進行上、曲順、曲目等が変更になることがあります。
あらかじめご了承ください。

エピソード

たかが“演歌”されど“艶歌”これで“怨歌”そして、ええんか!?

「日本人の心に響く演歌は時代が変わっても不滅です」。

と船村徹が生前常々語っていたようです。

さて、“演歌”という言葉についてすこし確認してみましょう。

wikipediaなどを調べると、“演歌”とは“演説歌”の略語だということです。演説歌とは明治時代から始まった、自由民権運動のなかで、反権力の思想を歌に託して表明する活動から現れた言葉だという。

へ〜!。ですね。

さて、船村の最初のヒット曲、「別れの一本杉」は当時、演歌と呼ばれていたのでしょうか。(昭和30年発売)

“演(説)歌”は本来の反権力思想から、大衆的な歌に変わっていきませんが、レコードが発売されるようになる昭和5年ころには衰退してしまい、演歌という言葉も使われなくなったそうです。

つまり、東海林太郎などが活躍していたころ、一般大衆を対象にした歌は流行歌とか歌謡曲と呼ばれていたようです。

その後昭和35年代になると、歌謡界には北島三郎、森進一、五木ひろし、細川たかし、都はるみなどが台頭し黄金期の様相を呈しました。そして昭和45年代におけるニューミュージックの台頭のころから、ヨナ抜き音階により、こぶしをきかせ切々と歌い上げられる従来の歌謡曲は大半が演歌と呼ばれました。そして、艶歌や怨歌とも表現されるようにもなりました。

ヨナ抜き音階とこぶしの二つが演歌を好きか嫌いかを分けるキーワードかも知れません。淡谷のり子は生前、「私の夢は演歌歌手を束にして火をつけるということなんです」と語っていたそうですが、こういう方もいるのです。話を戻せば、歌謡曲から派生した曲が“演歌”と呼ばれるようになったのはそんな昔のことではありません。

ですから、船村がこだわった“演歌”とは彼の心のなかにある「故郷、涙、酒、わかれ」などの哀愁へのこだわりを総括したモノかも知れません。歌謡曲(演歌も含め)が一時の衰退から立ち直り、ブームの兆しもあるなかで、今後どんな展開になるのでしょうか。楽しみです。

『アンパン、カツ丼、歌謡曲』,この三つは戦後の日本が西洋から輸入した文化を日本流にアレンジして成功した代表例だ」と岩城宏之(指揮者)が言っている。

一なかにし礼

プロフィール

酒井 沃子 Yoko Sakai

東京藝術大学音楽部声楽科卒業。数々のコンサートの企画運営に情熱を注ぎ、既成概念を破る印象的なステージ創りを次々と実現させている。コーラス4団体の主宰をし、個性を持った何処にも無いグループとして育てている。平成15年設立された、NPO法人「65歳からのアトラライフ推進会議」では、理事長として、青葉区から発信する音楽イベントを実現させ、多方面から注目を浴びている。「昔を今を 今歌う会」では、主宰・指導者として、地域の音楽に貢献している。

安田 直弘 Naohiro Yasuda

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業後、シャンソン、ポップス、ソウルバンド等、長年演奏活動が続ける。NHK レッツゴーヤングの歌唱指導等で高い評価を得る。現在、歌手・俳優へのヴォイストレーニングでも活躍中。東海大学、文化学院大学非常勤講師。

青柳 志保 Shiho Aoyagi ピアノ

玉川学園大学文学部芸術学科音楽専攻ピアノ科卒業。ピアニストとして声楽、器楽、合唱等のコンサートに出演する他 ミュージカルやバレエ、演劇の音楽を担当し、作編曲も手がける。青山学院女子短期大学子ども学科兼任講師、目白町教会オルガニスト、社会福祉法人さくら保育園リトミック講師。

次回 (第31回) のご案内

2017年 9月17日 (日) 開演14:00 (開場13:30)

会場 スタジオ・バルーン

♪これまでのコンサートの歩みはオフィス・バルーンの
ホームページでご覧戴けます。
(<http://www.ajisainokai.com>)

☆お申し込み・リクエストはオフィス・バルーンへ

Tel 045-902-7402 Fax 045-901-9914

E-Mail. office_balloon@a00.itscom.net

